

我が県土
支え育む
希望郷



美しい

県土づくりNEWS

2018年

11月

岩手県 県土整備部

手づくり広報誌第172号

平成30年11月30日発行

編集 県土整備企画室

目次

- 2 【主要地方道一関北上線】「柵の瀬橋」が開通しました！
- 4 【復興支援道路】一般国道107号梁川口内トンネルの銘板御披露目式を開催しました!!
- 6 建設ICT現場見学会&講習会を開催しています
- 8 いわて建設業みらいフォーラムを開催しました
- 10 国に対する提言・要望活動を行いました
- 11 復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！
釜石道特集② 釜石道と三陸沿岸道路(三陸道)の連携

三陸復興

遊水地の田園風景に抱かれる橋 新しい「柵の瀬橋」が開通

主要地方道一関北上線「柵の瀬橋」は、昭和38年に完成した旧橋の老朽化などに伴い、2013年度から架替工事を進めてきましたが、新橋が完成し、11月11日に開通しました。

橋の開通によって、幅員が広くなり交通が円滑になるほか、橋梁の耐震性や北上川の洪水流下能力が向上し、地域の活性化や災害時における信頼性の高い交通ネットワークの構築に大きく寄与することが期待されます。



左側が旧「柵の瀬橋」、右側が新「柵の瀬橋」です。将来においても地域の人々に親しまれる橋梁となるよう、周囲の田園風景との調和などに配慮し、景観やデザインを検討しました。

【主要地方道一関北上線】

「柵の瀬橋」が開通しました！

県南広域振興局土木部一関土木センター

国の一関遊水地事業に関連して整備を進めている、主要地方道一関北上線「柵の瀬橋」が平成30年11月11日（日）16時に開通しました。柵の瀬橋は北上川に架かるコンクリート橋としては県内で1番の長さになります。

当日は天候にも恵まれたなか、開通に先立ち11時から開通式を開催し、岩手河川国道事務所長、一関市長、平泉町長、細川県南広域振興局長、県議会議員、市議会議員、町議会議員、地権者、一関市立中里小学校、舞川小学校の皆様など約70人が出席しました。

開通式では、一関市長、高田県議会議員から御祝辞をいただき、中里小学校の児童からは、開通式を迎えての作文を発表していただきました。

その後、テープカットとくす玉開披、郷土芸能である中里鶏舞踊りが披露されました。開通式典後には、施工業者の主催による安全祈願祭を行った後、親子三代渡り初めを行いました。



細川県南広域振興局長の式辞



勝部一関市長の祝辞



菅原所長の事業経過説明



中里小学校児童からの作文発表



テープカット・くす玉開披



「中里鶏舞」披露



安全祈願



親子三代渡り初め



【復興支援道路】 一般国道107号梁川口内トンネル 銘板御披露目式を開催しました!!

～ 末永く地域に親しまれるインフラに！地元小学校児童が書いたトンネル銘板が完成 ～
県南広域振興局土木部

一般国道107号^{やながわくちない}梁川口内トンネル(L=1,022m)は、県が「復興支援道路」として奥州市江刺梁川から北上市口内町地内で整備を進めています。現在、トンネル本体工事が完了し、今年度中の開通を目指し、舗装工事や設備工事を進めています。

また、トンネル名称はこれまで「(仮称)梁川トンネル」としてきましたが、奥州市や北上市の意見等を踏まえ、「梁川口内トンネル」に決定したところです。

トンネルの両側の出入り口には、トンネル名を記載したトンネル銘板を設置しますが、その銘板を、起点(奥州市)側を奥州市立梁川小学校児童に、終点(北上市)側を北上市立口内小学校児童に書いていただき、11月21日に、それぞれの学校で完成した銘板の御披露目式を開催しました。

御披露目式には、小学校全校児童や地域住民等が出席し、児童や関係者の皆さんにより除幕を行い、完成したトンネル銘板が姿を現しました。

また、梁川小学校では、完成した銘板の裏面に児童全員のメッセージを記載しました。このメッセージは、梁川口内トンネルの中で末永く残り続けますので、本トンネルが将来にわたって地域に親しまれるインフラとなることを期待しています。

引き続き、今年度内の開通を目指して、全力で事業を推進していきます。



起点(奥州市)側坑口部のトンネル銘板
(奥州市立梁川小学校)



終点(北上市)側坑口部のトンネル銘板
(北上市立口内小学校)



トンネル銘板除幕

(北上市立口内小学校)



トンネル銘板の裏側に
メッセージを込める
児童の皆さん
(奥州市立梁川小学校)



(奥州市立梁川小学校)



【梁川～口内工区の事業概要】

一般国道107号は、沿岸部と内陸部を結ぶ幹線道路であり、東日本大震災津波の際は緊急輸送道路として大きな役割を果たしました。県では、岩手県東日本大震災津波復興計画（三陸復興道路整備事業）において「復興支援道路」に位置づけ、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの構築を目指しています。

奥州市江刺梁川から北上市口内町の区間は、急カーブや急勾配が連続する隘路となっており、交通事故が多発するなど安全で円滑な通行の支障となっていることから、県が平成25年度から梁川～口内工区の整備を進めています。

当工区の整備により、「復興道路」である東北横断自動車道釜石秋田線の江刺田瀬ICへのアクセシビリティが向上し、工業集積地である県南部と重要港湾等が位置する沿岸部を結ぶ道路ネットワークが強化され物流の効率化や産業振興等が図られるほか、峠部へのトンネル整備により冬期間の交通環境が大きく改善されます。

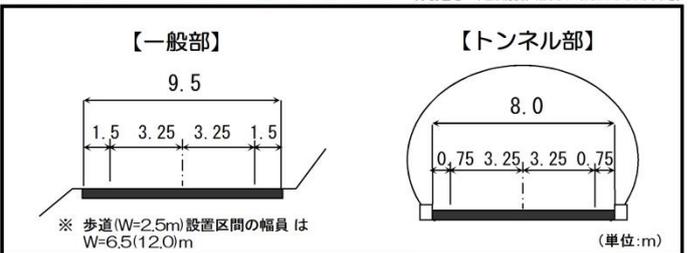
一般国道107号梁川～口内工区の事業概要



計画概要

計画延長	2,690m	
計画幅員	一般部	6.5(9.5-12.0)m
	トンネル部	6.5(8.0)m
道路の区分	第3種第2級	
設計速度	60km/h	

標準断面図



建設 ICT 現場見学会 & 講習会を開催しています

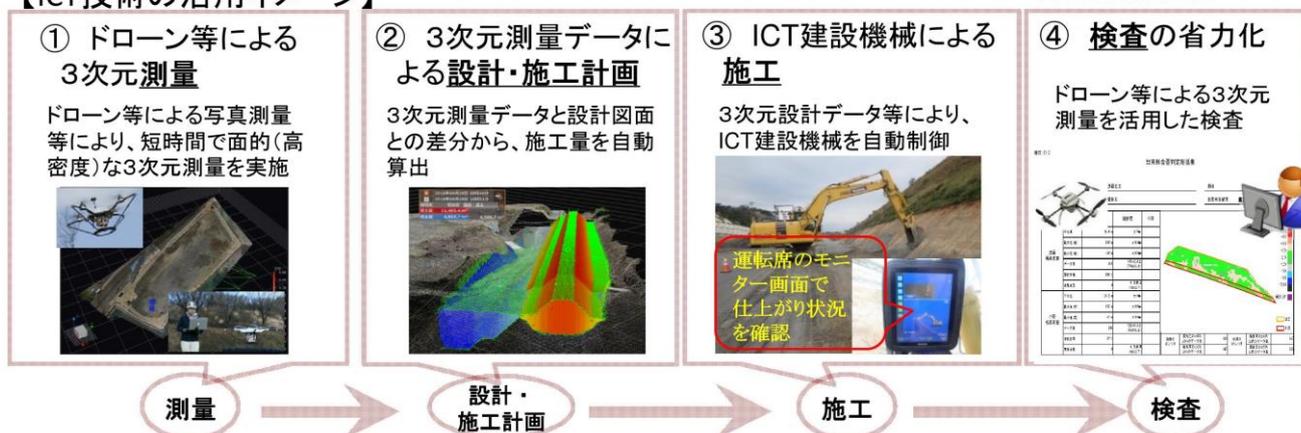
建設技術振興課

県土整備部では、建設現場の生産性の向上を図るため、建設 ICT 技術を活用した工事の普及・拡大に取り組んでいますが、その一環として、県内建設企業や測量設計会社、市町村等発注機関等の関係者の建設 ICT 技術への理解を深めるため、建設 ICT 技術活用工事現場を会場に見学会や講習会を開催しています。

【建設 ICT 技術活用のイメージ】

建設 ICT 技術の活用により、工期短縮、作業の効率化、人手不足の解決、安全性の向上、書類の削減等が期待されています。

【ICT技術の活用イメージ】



- ①ドローン等による3次元測量を行うことで、従来、人手で数日間かけて測量していた範囲を1日で終わらせることができます。
- ②3次元データで設計・施工計画を作成することで、複雑な地形であっても立体的に見ることで現場を把握しやすくなります。
- ③ ICT 建設機械による施工をすることで、経験の浅い運転手であっても熟練者並みの綺麗な仕上がりになります。
- ④3次元データを管理することで、書類を減らすことができます。

【現場見学会&講習会】

県土整備部では、平成 29 年度に ICT 活用工事の試行を開始し、これまでに 21 件の工事を行いました。今年度はこれまで 9 件の現場で見学会を開催しています。

また建設 ICT 技術の基礎知識についての講習会を開催しているほか、日本技術士会東北本部岩手県支部にも御協力いただき、3次元設計の事例紹介や、日本に数台しかない飛行機型 UAV の実演も実施しました。

今後も、現場の協力をいただきながら、現場見学会や講習会を開催し、県内への建設 ICT 技術の浸透を図っていきます。



遠野市上宮守地区
マシンガイダンスバックホウによる
法面整形の説明を聞いています



花巻市島地区
マシンコントロールグレーダによる
路盤工の説明を聞いています



花巻市島地区
マシンコントロールブルドーザによる
路盤工の実演を見学しています



一関市白崖地区
マシンコントロールブルドーザによる
盛土工の説明を聞いています



一関市大曲地区
GPSを利用した
施工管理の説明を聞いています



日本に数台しかない固定翼UAV



花巻市島地区
3D測量・3D設計を担当した設計会社から
説明を聞いています



久慈市諏訪下地区
UAVによる3次元測量の見学会

いわて建設業みらいフォーラム

を開催しました

建設技術振興課

平成30年11月8日(木)、岩手県民会館中ホールにて「いわて建設業みらいフォーラム」を開催しました。このフォーラムは、県民の安全で安心な暮らしに果たす建設業の役割やその魅力を積極的に発信することで、建設業のイメージアップを図り、次世代を担う若者をはじめとした県民の建設業への理解や関心を高めることを目的としたもので、今回で6回目の開催となります。

当日は県内の生徒・学生、建設業関係者など約350名の方々にご参加いただき、建設に係る取組事例の発表や建設業のこれからを語るパネルディスカッションを行ったほか、大船渡市出身のシンガーソングライター濱守栄子さんによるミニコンサートや企業ブースでの建設企業の紹介や技術展示が行われました。



中平技監

木下会長

主催の岩手県と県建設業協会をそれぞれ代表して、中平県土整備部技監と木下会長から挨拶を行いました。

中平技監からは、建設業は災害対応や社会資本の整備など、これからも地域の要として重要な役割を担っていること、木下会長からは、苦勞して手掛けたものが完成したときの達成感など、建設業でしか味わえない誇りが心に芽生えてくることなどを生徒・学生ほか参加者へ伝えました。

第1部 建設に係る取組事例発表

実際に県内の建設会社で働く若手技術者を代表して、(株)豊島建設の村上渡さんと(株)板谷建設の八重樫凜香さんから、それぞれ土木工事、建築工事の現場での業務の内容や仕事のやりがい等について発表していただきました。

また、これから建設業に携わっていく学生、生徒を代表して一関工業高校土木科3年の三浦龍さん、赤坂ほたるさん、加藤蓮さんから、同校の資格所得に向けた取組や学校生活を通して学んだことについて発表していただきました。



村上渡さん(株)豊島建設



八重樫凜香さん(株)板谷建設



一関工業高校土木科の生徒

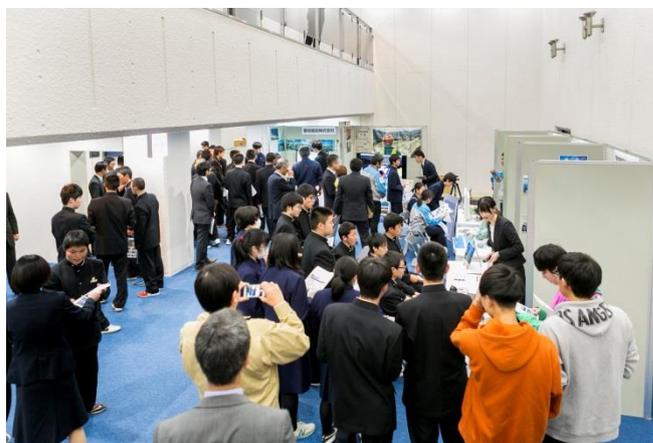
第2部 パネルディスカッション テーマ「建設業の今とこれから」

コーディネーターとして、県建設業協会青年部連絡協議会会長の青木健一さん、パネラーとして、取組事例で発表して頂いた若手技術者と高校生に、県建設業女性マネジングスタッフ協議会の上野千寿子盛岡支部長を加えて意見交換を行いました。

建設業の社会的役割や魅力、女性の活躍など、様々なテーマで意見を交換しました。席上では、構造物が後世に残る建設業が魅力的に感じたなど、建設業に対する前向きなイメージやこれからの抱負などが語られていました。



第3部では、大船渡市出身のシンガーソングライター濱守栄子さんによるミニコンサートが行われ、東日本大震災や復興支援活動に関するトークと代表曲「国道45号線」をはじめとする素敵な歌で、ステージを彩っていただきました。



会場ロビーでは、県内建設会社による企業紹介や、ICT建機メーカーによる技術展示が行われ、参加者が興味深く積極的に見学していました。

フォーラムの成果と今後に向けて

フォーラム実施後、参加者からいただいたアンケートでは、

- ・ 今回のみらいフォーラムを受け、建設業の大切さや、やりがい、大変さを知ることができ、仕事に対するイメージを膨らませることができた。(高校生)
- ・ 進路を決める際にとっても参考になる事ばかりでとても勉強になった。(高校生)
- ・ 取組発表では、それぞれの立場からの内容で聴く側にとってとても分かりやすくて良かった。建設業を知ってもらう為にとっても良い取組だと思う。企業のブースがもう少し多くても良いのではないかと。(一般参加者)

といったご感想、ご意見をいただきました。

今後も、ご意見を生かしながら継続してフォーラムを実施していきたいと考えておりますので、皆様もぜひ次回フォーラムにご参加ください。

国に対する提言・要望活動を行いました

～震災からの復興と、社会資本の適切な整備・維持管理に向けて～

県土整備企画室

平成30年11月9日、県では、国に対する提言・要望活動を実施しました。

今回の要望では、保副知事が復興庁と国土交通省を訪問し、東日本大震災津波等からの復興や2019年度政府予算、平成30年度補正予算等について要望を行いました。

大震災津波等からの復旧・復興を着実に進めるとともに、県民の生活を支える社会資本を適切に整備・維持していくため、県では、引き続き、国に働きかけていきます。

【主な要望内容】

1 東日本大震災津波等からの復興に関する提言・要望

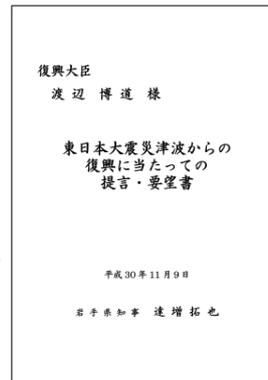
- 直轄事業の着実な推進
- 津波対策施設に係る維持管理費等に対する財政措置など

2 2019年度政府予算に関する提言・要望

- 公共事業予算の安定的・持続的な確保
- 災害に強い県土づくりへ向けた防災・減災対策への支援など

3 平成30年度補正予算等に向けた提言・要望

- 社会資本整備を推進するための予算の確保
- 事前防災のための予算の確保



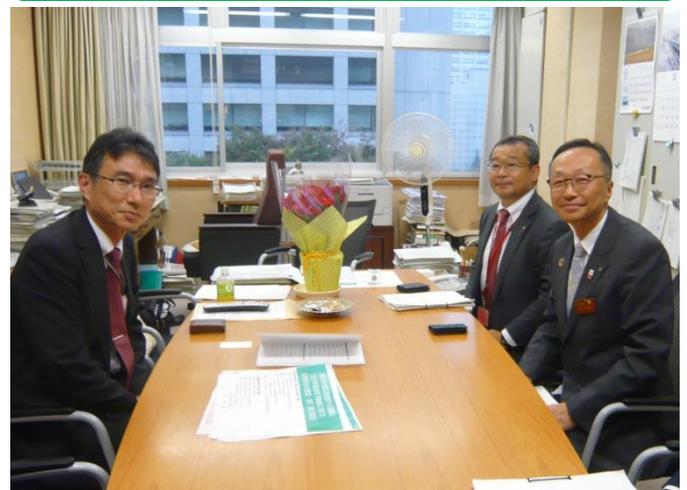
復興庁への要望



末宗 統括官
(写真左)

保 副知事
(写真右)

国土交通省への要望



五道 技術審議官
(写真左)

保 副知事
(写真右)

復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！

【第 13 回】

釜石道特集②

釜石道と三陸沿岸道路(三陸道)の連携

Q 沿岸部の三陸道（縦軸）と内陸と沿岸を結ぶ釜石道（横軸）はどこでつながるのですか？

A 三陸道と釜石道は、釜石市内の釜石 JCT で交わり、一般道に降りることなく、高速道路でつながります！

Q 三陸道は、全線開通後、どこからどこまでつながりますか？

A 2020 年度には南は仙台、北は八戸までつながることを目標に国土交通省が事業を進めています。
これまで、完成したところから部分開通していましたが、今年度、釜石以南の県内区間が一本の高速道路でつながります！

Q 釜石市と陸前高田市の間が高速道路のみで移動できるということですか？

A そのとおりです！
震災前に比べて移動時間が半分近く短縮されます！



2018年度全線開通予定

開通後の所要時間の変化

陸前高田市～釜石市

25分短縮！

震災前
約 60 分

震災後
約 35 分

陸前高田市～花巻市

50分短縮！

震災前
約 150 分

震災後
約 100 分

高速料金は無料！
(東和～花巻を除く)

【おまけ】 現状の問題点と整備の背景

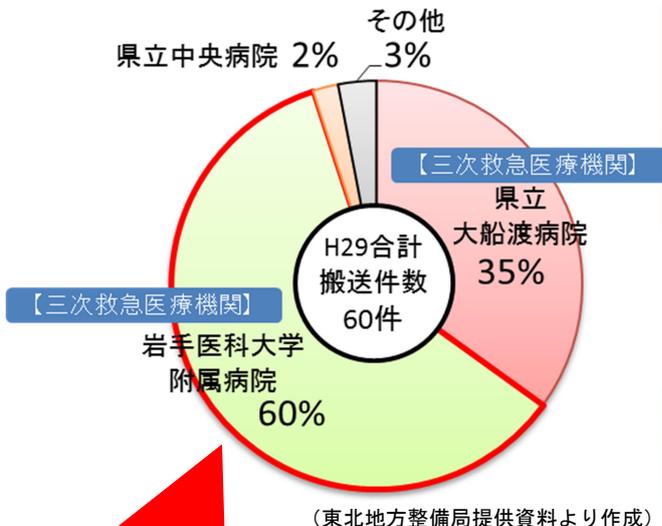
Q 現在利用している道路（現道）にはどんな問題があったのですか？

A 例えば、これまでは救急医療に不安がありました。

釜石地域の医療圏では、岩手医科大学附属病院などの盛岡方面に患者の約6割を搬送しています。釜石道の整備により、これまでの課題だった搬送時間や走行性などの改善が見込まれます。

盛岡方面以外には、県立大船渡病院へ搬送しており、釜石道と同じく今年度釜石以南がつながる三陸道の活用が期待されます。

▼釜石市の管外搬送の割合（H29）



管外搬送の約6割が盛岡市方面

- 【問題点】
- 長距離・長時間の搬送
 - 不安定な搬送時間（市街地の混雑）
 - 山道（カーブやアップダウンが連続）のため加減速が発生し、揺れが搬送患者に負担

釜石道整備により改善

- 【速達性】搬送時間の短縮！
- 【安定性】搬送時間が安定！（搬送時間のバラツキが少ない）
- 【走行性】急カーブ・急勾配区間の解消

他にも、東日本大震災津波発生後、内陸から沿岸被災地への救援・救護には後方支援拠点（遠野市）から横軸により行われましたが、釜石道未整備区間では現道に交通が集中し、幹線道路としての機能が低下しました。

その反面、当時開通していた区間が迂回路や避難路、救助・救援活動等の防災機能を発揮し、高い走行速度での安全安心な通行により沿岸部への重要な連絡路として機能しました。

Q 復興道路・復興支援道路と呼ばれるということは、東日本大震災津波がきっかけで整備が進められるようになったのでしょうか。

A 平成23年6月（発災から約3ヵ月後）に東日本大震災復興構想会議において、太平洋沿岸軸の緊急整備や、太平洋沿岸と東北縦貫道をつなぐ横断軸の強化について提言され、11月に「復興道路・復興支援道路」として新規事業化されました。

「復興道路」という言葉が初めて使われたのは地元新聞で行われた達増知事のインタビューからとられています。

☆うんちく Point

来月号では、釜石道を中心に、事業化から着工、現在に至るまでの取組等を紹介します。